

2012年 米国バースト一校海外短期研修の記録

1 ねらい

米国バースト一校海外短期研修において、本校はミズーリ州カンザスシティにあるザ・バーストースクール（The Barstow School）と連携し、生徒及び教職員の交流を図っている。日米両国の学校生活やフィールドワーク及び家庭生活等を体験させ、自然、科学技術、文化、生活、習慣等を学ぶことにより、国際的視野を持った青少年を育成することを目的としている。

国際的視野を持った青少年の育成のために、今回の研修ではホームステイや現地の学校に通うといった異文化理解だけにとどまらず、科学技術における興味・関心を伸ばすと同時に英語でのプレゼンテーション力の目的としている。これらを達成するために、日本での課題研究の成果を英語で発表することや現地の生徒と共に理科実験を行っている。


現地での研修をより効果的にするために、参加者に対して5月～9月の期間、大学や本校で事前研修を行った。研修は、異文化理解と英語でのプレゼンテーションのための特別なプログラムについて実施した。

2 現地での研修の日程

2012年に8泊10日で実施した現地での研修の日程は次のとおりである。

月 日	時 程	活 動 内 容
9月15日 (土)	10:23 14:07 18:20 17:10 18:40	岡山駅発 上野駅へ 上野発 成田空港へ 成田空港発 ダラスへ (AA060) ダラス発 カンザスシティへ (AA1769) カンザスシティ空港着 ホテル泊
9月16日 (日)	午前 午後	ホストファミリー対面 (ホテルにて) ホストファミリーと過ごす・ホームステイ
9月17日 (月)	8:00 午前 12:30～13:00 午後～	バーストースクール登校 オリエンテーション (学校生活、施設案内等)  昼食 本校教員による共同授業 (本校生徒はTAとして活動)

	授業終了後	 <p>下校</p>
9月18日 (火)	8:00 午前 12:30~13:00 午後 授業終了後	<p>バーストースクール登校 バーストー校の授業受講 (バディーとともに行動)</p>  <p>昼食 本校教員による共同授業実施 (本校生徒はT Aとして活動) 実習授業受講 (「CO₂カー作製」実習Beier先生)</p> <p>下校</p>
9月19日 (水)	8:00 午前 12:30~13:00 午後 授業終了後	<p>バーストースクール登校 バーストー校の授業受講 (バディーとともに行動)</p>  <p>昼食 実習授業受講 (「CO₂カー作製」仕上げと完成Beier先生)</p> <p>下校</p>
9月20日 (木)	8:00 午前 12:30~13:00 午後	<p>バーストースクール登校 バーストー校の授業受講 (バディーとともに行動。)</p>

		 <p>昼食 実習授業受講（「CO₂カーレース」全校生徒との交流） 下校</p>
9月21日 (金)	8:00 午前 12:30~13:00 午後	<p>バーストースクール登校 バーストー校の授業受講（バディーとともに行動） 昼食 研究発表会（課題研究ポスター発表など） 送別会（バーストー校による計画）</p>  <p>下校</p>
9月22日 (土)	午前 午後	<p>ホストファミリーと過ごす ホテル集合・ホテル泊</p>
9月23日 (日)	5:50 12:45	<p>カンザスシティ空港発 シカゴへ シカゴ発 成田空港へ</p>
9月24日 (月)	16:20 17:55 19:30 23:01	<p>成田空港着 成田空港発 東京駅へ 東京駅発 岡山駅へ 岡山着</p>

3 現地での活動の様子

(1) バーストー校生徒との共同実験授業

ア 目的

現地の生徒と一緒に観察・実験や実習を行う授業を実施することによって、将来国際的に活躍するために必要な科学的コミュニケーション能力の育成を図る。

イ 内容・結果

今年度は引率教員2名のうちの1名が生物の実習授業を、また、もう1名の教員が日本文

化の紹介を行った。事前の情報交換により、内容と準備物についての調整を行った。

(2) ポスター発表

ア 目的

課題研究で取り組んでいる内容や日本文化の紹介を英語でポスター発表することにより、英語でのプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の更なる向上を図る。

イ 内容・結果

9月21日に、課題研究で取り組んでいる内容や日本文化などについて事前に準備したポスターで発表した。バーストー校内の共同の休憩場で行われた。現地の生徒や教職員が多数参加した。本校の生徒は、はじめは緊張していたが、次第に慣れて、研修の成果を存分に発揮し、質疑応答もしっかりとできていた。



(3) バーストー校における授業と異文化交流

ア 目的

授業に参加したり、学校生活を体験したりすることによって、現地の生徒との交流を図り異文化についての理解を深める。

イ 内容・結果

バーストー校内の生活については、**Shadow student** とよばれる生徒が本校生徒一人一人について協力をしてくれた。その**Shadow student** と共に授業を受けたり、本校の生徒が興味のある授業を見学したりした。また、二酸化炭素ガスを噴射して走る車を作って実際に走らせるプログラムを行った。

現地生徒との交流を通して、米国での授業スタイルや異文化について理解を深め、英語能力の伸長も見られた。

4 研修の効果

平成23年度の「SSH研究開発実施報告書」で詳細に報告しているが、本研修に参加した生徒には、次のような変容が見られることが明らかになっている。

- 「自国の歴史や文化、自分の住む地域の自然や文化を相手に伝えることについて自信が付くとともに、英語でのプレゼンテーションや会話にも抵抗感が少なくなる。また、英語の勉強や、国際的な舞台で仕事をして活躍したいという意欲が高まる。